

Q 1 複数の保健室等登校児童生徒がいます。いつも保健室に来るA子は、たまに登校するB子に気を遣います。複数の児童生徒が、安心して生活できるような保健室経営の工夫を教えてください。

現 状

- 1 実態調査の結果から、保健室等登校児童生徒が複数在籍している学校数は、小学校6校、中学校28校、高等学校12校である。
- 2 保健室等登校児童生徒の約50%は、保健室を利用している。具体的な対応方法の決定については不登校に関する委員会等よりも担当者に委ねられる傾向がある。
- 3 保健室等登校児童生徒は、基本的に個別対応を求めていることが多く、複数の保健室等登校児童生徒がいる場合、質問のような課題が生じることも多い。
- 4 質問にあるA子は、ほぼ毎日保健室に登校しているが、養護教諭とのみ会話ができる程度であり、他の児童生徒や教職員とのかわりを図るには、時間がかかる状況である。B子は、時折保健室に登校する程度で、これまでA子とB子が一緒に活動することはほとんどない状況である。

考えられる対応例

- 1 現在、保健室等登校児童生徒が何人おり、今後何人増えそうか、学校として現状を把握することが必要である。
- 2 保健室等登校児童生徒に対して、どの部屋で、誰が、どのように対応するか、不登校に関する委員会や生徒指導部会等で細かく計画案を検討し、個別の対応計画を作成する必要がある。
- 3 同時に複数の児童生徒を受け入れざるを得ない状況が生じた場合、児童生徒の個人的な特性や不登校時の状況、保健室などに登校するようになってからの様子を十分に検討し、主として対応する職員が複数の児童生徒のニーズに可能な限りこたえることができるように努めることが大事である。
- 4 A子とB子が一緒に保健室を利用しているも、相互のプライバシーが守れるように仕切りをしたり、個別の話をする場合は別室でしたりするなど、配慮が大切である。
また、A子もB子も対人関係を改善していく必要があるので、時機をみて養護教諭が構成的グループエンカウンターのショートエクササイズ等を活用し、ゲーム感覚で触れ合いができるような場づくりをする必要がある。



ショートエクササイズ参考例
じゃんけん手の甲たたき

二人が右手で握手をし、左手でじゃんけんをする。勝った方は、左手で相手の右手の甲をたたく。負けた方は、自分の手の甲を左手でカバーする。4、5回繰り返し感想を話し合う。